TASCAM

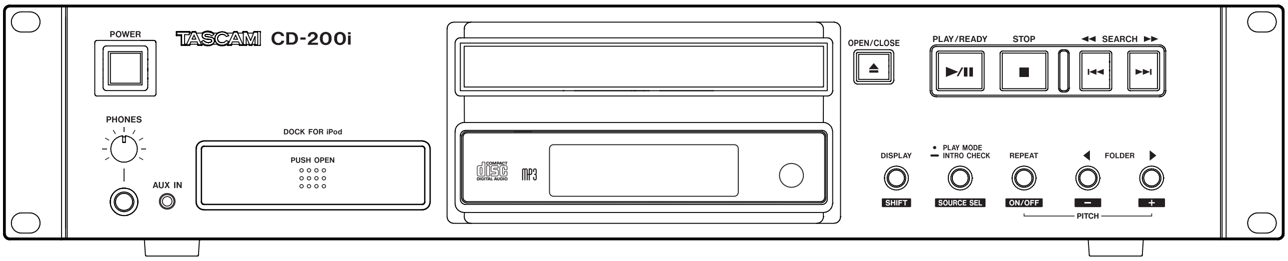
D01086301B

CD-200i

CD Player / iPod Dock

取扱説明書

Made for iPod



安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

この機器を使用できるのは、日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には、接続しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは、絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は、販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は、火災・感電の原因となります。

⚠注意

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

オーディオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器は、コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。
・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

5年に一度くらいは、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて

本製品は、電池を使用しています。誤った使用による発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠警告（乾電池に関する警告）

乾電池は、絶対に充電しないでください。
乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠警告（電池に関する警告）

電池を入れるときは、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、電池ケースの表示されているとおりに正しく入れてください。
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製のものと接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。

使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。

指定以外の電池は、使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。

電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
液が目に入ったときには、失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。液が体や衣服に付いたときは、皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。

電池の挿入や交換は、本機の電源を切った状態で行ってください。

長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。
もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

分解しないでください。
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

安全にお使いいただくために 2
電池の取り扱いについて 4

第1章　はじめに 6
本製品の構成 6
本書の表記 6
商標に関して 6
設置上の注意 6
電源について 7
結露について 7
製品のお手入れ 7
CD（コンパクトディスク）について 7
取り扱い上の注意 7
アフターサービス 7

第2章　各部の名称と働き 8
フロントパネル 8
iPod用ドック 9
リアパネル 10
ディスプレー 11
ワイヤレスリモコン（RC-CD200i） 12

第3章　準備 14
オーディオおよびビデオ機器との接続 14
iPodの接続 15
iPodドックの引き出しかた 16
iPodドックの収納のしかた 16
ドックアダプターの外しかた 16
iPodを取り外すには 17
外部オーディオプレイヤーの接続 17
リモコンを準備する 18
乾電池の入れ方 18
乾電池の交換時期 18
乾電池についての注意 18
リモコン使用上の注意 18
出力ソース音を切り換える 19

第4章　CDの再生 20
再生可能なディスク 20
データCDのフォルダとトラックについて 20
CDをセットする 21
再生する 21
トラックを選ぶ 22
前後のトラックにスキップする 22
トラック番号を指定する 22
早送り/早戻しサーチ 22
フォルダ再生（データCDのみ） 23
フォルダを選ぶ 23
再生モード 23
再生モードを選択する 23
プログラム再生 24
プログラムを設定する 24
プログラムを確認する 25
プログラムトラックを差し替える 25
プログラムトラックを追加する 26
プログラムを消去する 26
リピート再生 26
時間や文字情報の表示 27
ピッチコントロール 27
イントロチェック 28

第5章　iPodの再生 29
iPod用ドックについて 29
コントロール範囲 29
iPod側の設定 29
iPodの再生 29
iPodのビデオ出力先の選択 29

第6章　メッセージ一覧 30
動作メッセージ 30
警告メッセージ 30
エラーメッセージ 30

第7章　トラブルシューティング 31
定格 32
入出力定格 32
オーディオ性能（CD再生時） 32
バックアップメモリー 32
一般 32
寸法図 33

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM CD Player/iPod Dock CD-200i をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、弊社ウェブサイト（http://tascam.jp/）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- オーディオCD（CD-DA）の他に、WAV形式、MP3形式のファイルを収録したデータCD（CD-ROM）の再生が可能。
- CD-R、CD-RWディスクの再生が可能。
- 2U、EIAラックマウントサイズ。
- アナログ出力（RCA）およびデジタル出力（コアキシャルおよびオプティカル）を装備。
- ヘッドホンによるモニターが可能。
- テンキーを装備したワイヤレスリモコンを付属。
- CDテキストおよびID3タグに対応し、文字情報（アーティスト名、アルバム名、トラック名など）の表示が可能。
- 3種類の再生モード（連続、シャッフル、プログラム）。
- リピート再生機能（シングルリピート、オールリピート）。
- ピッチコントロール機能（±14%）。
- イントロチェック機能。
- データCDのフォルダ再生機能。
- 時間表示（オーディオCDはトラック経過時間、トラック残時間または総残時間、データCDは総経過時間）が可能。
- 10秒のショックプルーフメモリー（音飛びガード）を搭載。
- iPod用ドックを搭載、iPod再生音の出力、ビデオ再生出力、コントロール、充電が可能。
- ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子を装備、iPod以外のポータブルオーディオ機器の音声入力が可能。

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお開梱は、本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- ワイヤレスリモコン（RC-CD200i）　x1
- 単3形乾電池　x2
- ラックマウントビスキット　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のキー/端子などを「**MENU**キー」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“REPEAT”** のように **“_”** で括って表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3オーディオファイルやWAVオーディオファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注 意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

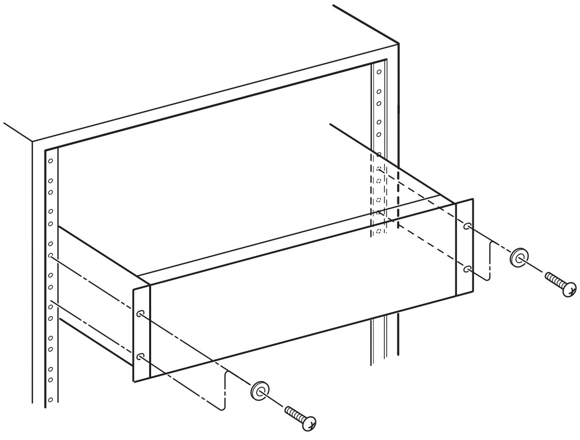
商標に関して

- TASCAMは、ティアック株式会社の登録商標です。
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- 「Made for iPod」とは、iPod専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
Apple Inc. は、本製品の動作、および本製品が安全性の規格や法規制に準拠しているかどうかについて責任を負いません。
iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏5度〜35度です。
- 本製品は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本製品の上には、物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に、本製品を置かないでください。
- 本製品をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
なお、本製品のiPodドックをご使用になる場合は、本機の上側に設置された機器との干渉を避けるため、本製品の上に2U以上

（10cm以上）のスペースを開けてください。



電源について

AC100V（50-60Hz）以外の電源には、接続しないでください。電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

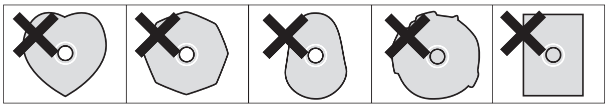
製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3オーディオファイル、あるいはWAVオーディオファイルを記録したCD-RやCD-RWディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。
  指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは、絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またはシールなどから糊がはみ出ているものは、使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは、使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらは、CD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

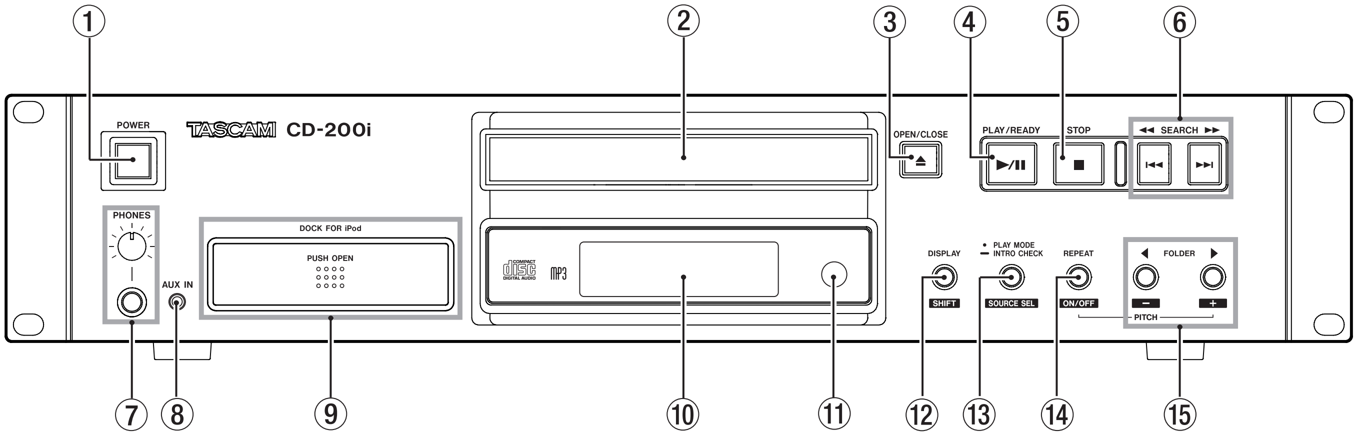
アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合の故障および損傷は有償になります。その他の詳細につきましては、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから次の事項を確認の上、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（CD-200i）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

第2章　各部の名称と働き

【CD】、【iPod】、【AUX IN】は、それぞれが出力ソースとして選択されているとき使用できる機能です。

フロントパネル



① POWERスイッチ
電源をオン/オフします。

注 意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② ディスクトレー
OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。
ディスクトレーを閉じるときは、OPEN/CLOSEキーを押します。

③ OPEN/CLOSEキー
ディスクトレーを開閉します。

④ PLAY/READYキー【CD】【iPod】
停止中または一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと一時停止状態になります。

⑤ STOPキー【CD】【iPod】
CDが出力ソースとなっている場合は、このキーを押すと再生を停止します。
iPodが出力ソースとなっている場合は、このキーを押すと一時停止状態になります。

⑥ SEARCH ◀◀/▶▶ [|◀◀/▶▶|]【CD】【iPod】
短く押すとトラック選択（スキップ）を行い、押し続けるとサーチを行います。

⑦ PHONESジャック/つまみ【CD】【iPod】【AUX IN】
ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ホンジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。
PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注 意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑧ AUX IN端子
ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子です。
ポータブルデジタルプレイヤーなどの外部オーディオ機器を接続します。

注 意

外部機器をAUX IN端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑨ DOCK FOR iPod
iPod用ドックです。
パネル面を押すとロックがはずれ、手前に引き出すことができます。適切なドックアダプターを差込み、iPodを装着してください。
収納する場合は、iPodを取り外し、CLOSEボタンを押しながらカチッと音がするまでパネル面を押してください（ → 15ページ「iPodの接続」）。

⑩ ディスプレー
各種情報を表示します。

⑪ リモコン受光部
付属のワイヤレスリモコン（RC-CD200i）の信号を受信します。
リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

⑫ DISPLAY [SHIFT] キー【CD】【iPod】
CDが出力ソースとなっている場合は、ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。このキーを押すと、現在ディスプレーに表示している情報の種類を2秒間表示します。その間に再度このキーを押すと、表示内容の種類を切り換えます。表示できる情報は、ディスクの種類や動作状態によって変わります（ → 27ページ「時間や文字情報の表示」）。
iPodが出力ソースとなっている場合は、ビデオ出力先をiPod本体にするか、VIDEO OUT端子にするかを切り換えます。
ビデオ再生中に切り換えた場合は、一旦ビデオ再生を終了し、再度再生を行ったときに、ビデオ出力先が切り換わります。
他のキーと同時に押すことにより、シフト機能（各キーの下に白抜きの文字で表示）の操作をします。

⑬ PLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キー【CD】【iPod】

CDが出力ソースとなっている場合は、このキーを短く押すと、再生モードを切り換えます。再生モードには、連続、シャッフル、プログラムの3種類があります（ → 23ページ「再生モード」）。
再生中あるいは停止中にこのキーを長く押すと、イントロチェック再生を行います。CDに収録されている曲の冒頭部分を10秒間、次々と再生します。イントロチェック再生中に、再度このキーを長く押すとイントロチェック機能を解除し、前に設定された再生モードに戻り、現在のトラックを再生し続けます（ → 28ページ「イントロチェック」）。
DISPLAY [SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すと、以下の順で本機から出力する音を切り換えます（ → 19ページ「出力ソース音を切り換える」）。

→ CD → iPod → AUX IN

iPodが出力ソースとなっている場合は、iPodのシャッフル再生モードを切り換えます。シャッフル再生モードには、オフ、曲、アルバムの3種類があります。

注意

- iPod、AUX INについては、機器が接続されていない場合は選択できません。
- イントロチェック機能は、iPodには使用できません。

⑭ REPEAT [PITCH ON/OFF] キー【CD】【iPod】

リピート再生モードを以下の順で切り換えます（ → 26ページ「リピート再生」）。

→1曲リピート → 全曲リピート → リピートオフ

DISPLAY [SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すと、ピッチコントロール機能のオン/オフを行います（ → 27ページ「ピッチコントロール」）。

注意

ピッチコントロール機能は、iPodには使用できません。

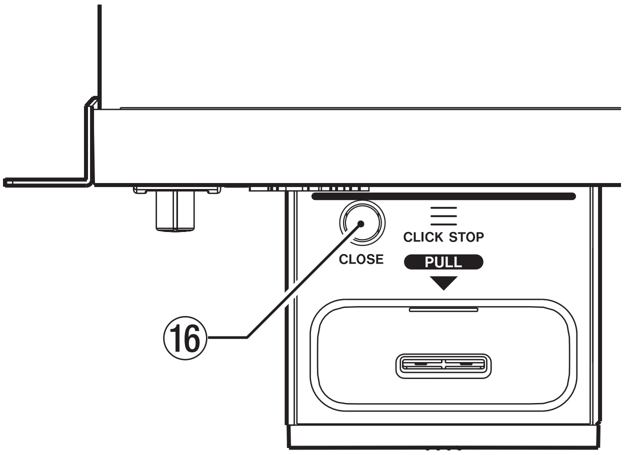
⑮ FOLDER ◀ / ▶ [PITCH − /+] キー【CD】【iPod】

CDが出力ソースとなっている場合は、データCDをセットしているときに、これらのキーを押すと、再生対象となるフォルダが切り換ります。このとき、**“ALL”**を指定すると、ディスク全体が再生範囲となります（ → 23ページ「フォルダ再生（データCDのみ）」）。
iPodが出力ソースとなっている場合は、アルバム選択（スキップ）をします。
DISPLAY [SHIFT] キーを押しながらこれらのキーを押すと、ピッチコントロールの値を設定します（ → 27ページ「ピッチコントロール」）。

注意

ピッチコントロール機能は、iPodには使用できません。

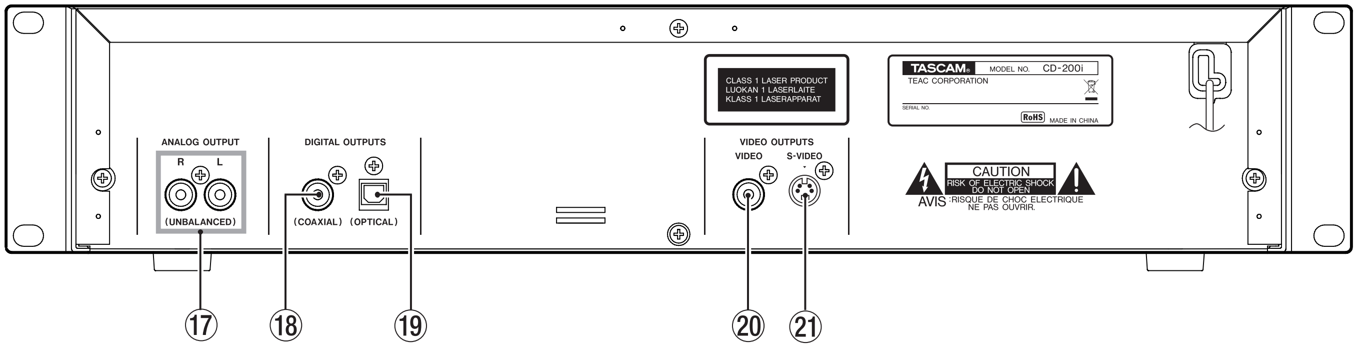
iPod用ドック



⑯ CLOSEボタン

iPod用ドックを収納する際に、ロックを解除するボタンです。
iPod用ドックを収納するときは、このボタンを押しながら、パネル面を押してください。

リアパネル



⑰ ANALOG OUTPUT [UNBALANCED] 端子【CD】【iPod】【AUX IN】

CD、iPodの再生音声信号、もしくは**AUX IN**端子の入力信号をアナログ出力します（－10dBV）。

⑱ DIGITAL OUTPUTS [COAXIAL] 端子【CD】

CDの再生信号をS/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

メモ

iPodの再生音声信号と**AUX IN**端子の入力信号は、アナログ出力のみとなっております。デジタル出力はされません。

注意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1KHzとなります。
- オーディオCD、MP3、WAVファイル再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

⑲ DIGITAL OUTPUTS [OPTICAL] 端子【CD】

CDの再生信号をS/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

メモ

iPodの再生音声信号と**AUX IN**端子の入力信号は、アナログ出力のみとなっております。デジタル出力はされません。

注意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1KHzとなります。
- オーディオCD、MP3、WAVファイル再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

⑳ VIDEO OUTPUTS　VIDEO端子【iPod】

iPodの再生映像信号を出力するコンポジットビデオ出力端子です。

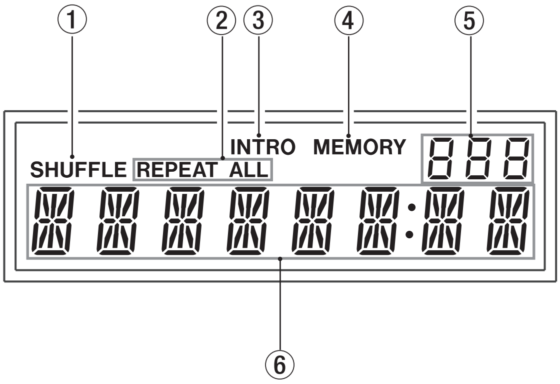
接続した機器に応じて、iPodのテレビ信号設定（NTSCまたはPAL）およびテレビ画面設定（もしくはワイドスクリーン設定）を変更してください。

㉑ VIDEO OUTPUTS　S-VIDEO端子【iPod】

iPodの再生映像信号を出力する**S-VIDEO**出力端子です。

接続した機器に応じて、iPodのテレビ信号設定（NTSCまたはPAL）およびテレビ画面設定（もしくはワイドスクリーン設定）を変更してください。

ディスプレー



① SHUFFLE表示【CD】【iPod】

シャッフル再生モード時に“SHUFFLE”が点灯します。

iPodが出力ソースとなっている場合は、曲シャッフル再生モードのとき点灯し、アルバムシャッフル再生モードのときに点滅します。

② リピート再生モード表示【CD】【iPod】

オールリピートのとき“REPEAT ALL”、シングルリピートのとき“REPEAT”が点灯します。

③ INTRO表示【CD】

イントロチェック機能がオンのときに“INTRO”が点灯します。

④ MEMORY表示【CD】

プログラム再生モード時に“MEMORY”が点灯します。

プログラム設定時は点滅します。

⑤ フォルダ番号表示部【CD】

データCDをセットしている場合は、フォルダ再生時はフォルダ番号を表示し、ディスク（全フォルダ）再生時は“ALL”を表示します。オーディオCDをセットしている場合は、“cd”を表示します。

⑥ メイン表示部【CD】【iPod】

トラック番号/時間表示または文字情報表示を行います。また、本機の状態（“OPEN”、“CLOSE”、“TOC* READ”など）やメッセージ（“NO DISC”など）の表示も行います。

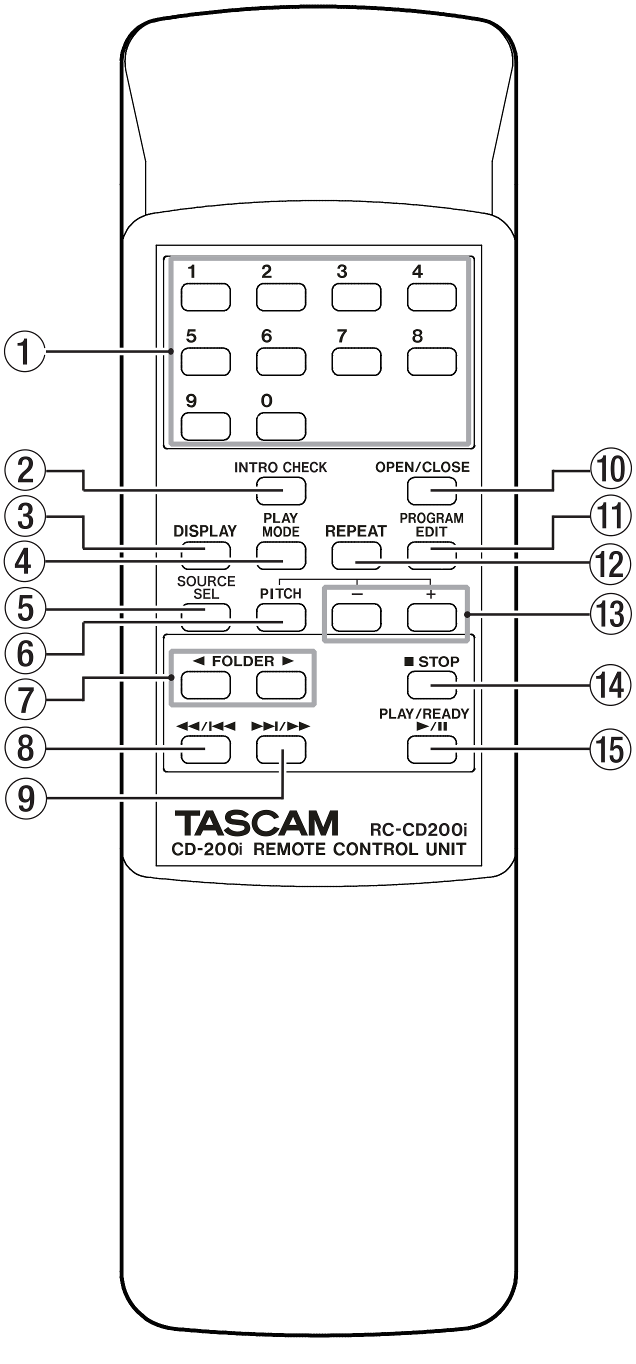
8文字を超えるものはスクロール表示します。

＊ TOC：Table Of Contents ＝ ディスクに書かれている曲情報

注意

第4世代のiPodまたは、iPod miniを接続し、iPodが出力ソースとなっている場合は、ディスプレーの“SHUFFLE”表示と“REPEAT”表示は点灯しません。現在のiPodの再生モードおよびリピートモードの確認は、iPod本体で行ってください。

ワイヤレスリモコン（RC-CD200i）



① テンキー【CD】

テンキーを使ってトラック番号を指定して選曲することができます（ → 22ページ「トラック番号を指定する」)。トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3桁です。

② INTRO CHECKキー【CD】

イントロチェック再生を行います。CDに収録されている曲の冒頭部分を10秒間、次々と再生します。イントロチェック再生中に、再度このキーを長く押すと通常再生モードに戻ります（ → 28ページ「イントロチェック」)。

③ DISPLAYキー【CD】【iPod】

CDが出力ソースとなっている場合は、ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。このキーを押すと、現在ディスプレーに表示している情報の種類を2秒間表示します。その間に再度このキーを押すと、表示内容の種類を切り換えます。表示できる情報は、ディスクの種類や動作状態によって変わります（ → 27ページ「時間や文字情報の表示」)。

iPodが出力ソースとなっている場合は、ビデオ出力先をiPod本体にするか、VIDEOOUT端子にするかを切り換えます。

ビデオ再生中に切り換えた場合は、一旦ビデオ再生を終了し、再度再生を行ったときに、ビデオ出力先が切り換わります。

④ PLAY MODEキー【CD】【iPod】

CDが出力ソースとなっている場合は、再生モードを切り換えます。再生モードには、連続、シャッフル、プログラムの3種類があります（ → 23ページ「再生モード」)。

iPodが出力ソースとなっている場合は、iPodのシャッフル再生モードを切り換えます。シャッフル再生モードには、オフ、曲、アルバムの3種類があります。

⑤ SOURCE SELECTキー

出力ソース音を以下の順で切り換えます（ → 19ページ「出力ソース音を切り換える」)。

→ CD → iPod → AUX IN ┐（AUX INからCDに戻る）

⑥ PITCHキー【CD】

ピッチコントロール機能のオン/オフを行います（ → 27ページ「ピッチコントロール」)。

⑦ FOLDER ◀ / ▶キー【CD】【iPod】

CDが出力ソースとなっている場合は、データCDをセットしているときにこれらのキーを押すと、再生対象となるフォルダが切り換わります。“All”を選ぶことによって全フォルダを再生対象にすることもできます。(→ 23ページ「フォルダ再生（データCDのみ)」)

iPodが出力ソースとなっている場合は、アルバム選択（スキップ）をします。

⑧ ◀◀/I◀◀ キー【CD】【iPod】

短く押すとトラック選択（スキップ）を行い、押し続けるとサーチを行います。

⑨ ▶▶I/▶▶ キー【CD】【iPod】

短く押すとトラック選択（スキップ）を行い、押し続けるとサーチを行います。

⑩ OPEN/CLOSEキー【CD】
ディスクトレーを開閉します。

⑪ PROGRAM EDITキー【CD】
CDが出力ソースとなっている場合は、プログラムの設定、確認、編集を行うときに使います。（ → 24ページ「プログラム再生」）

⑫ REPEATキー【CD】【iPod】
リピート再生を行うには、このキーを押してシングルリピートまたはオールリピートを選択します。リピート再生を解除するときにもこのキーを押します。（ → 26ページ「リピート再生」）

リピート再生モードを以下の順で切り換えます。

→1曲リピート → 全曲リピート → リピートオフ

⑬ ー /＋ キー【CD】
ピッチコントロールの値を設定します（ → 27ページ「ピッチコントロール」）。

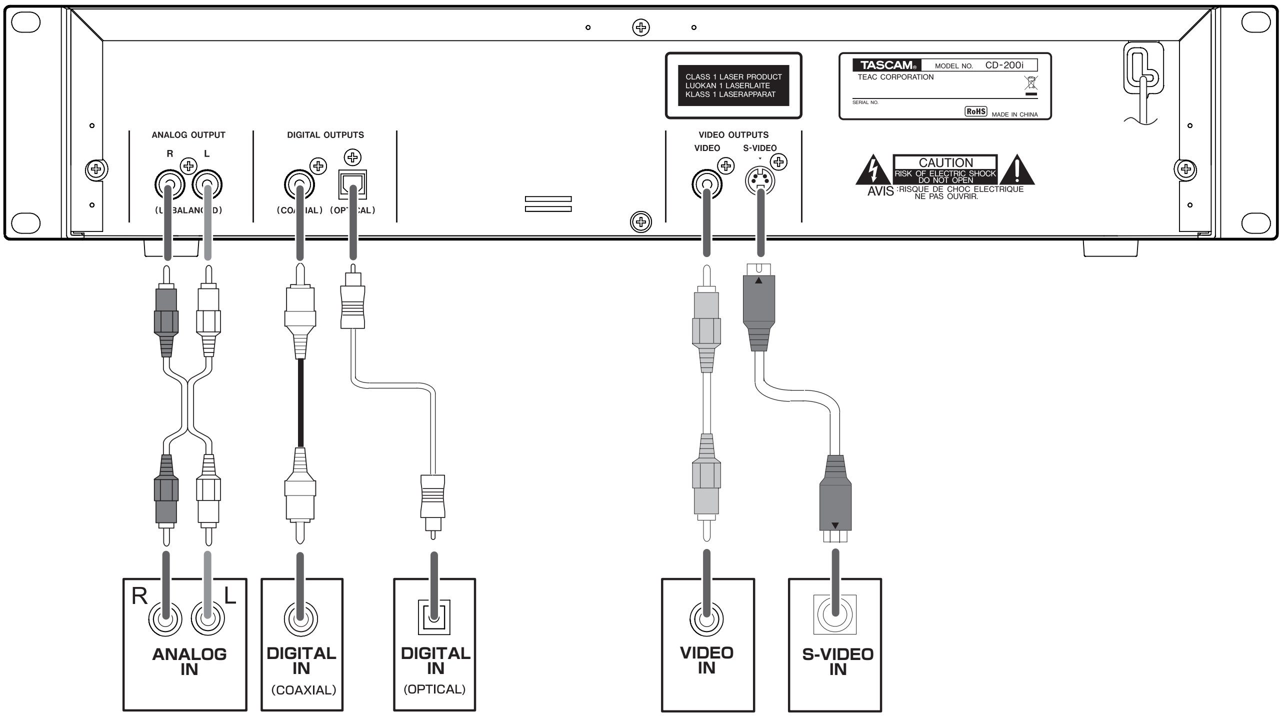
⑭ STOPキー【CD】【iPod】
CDが出力ソースとなっている場合は、このキーを押すと再生を停止します。
iPodが出力ソースとなっている場合は、このキーを押すと一時停止状態になります。

⑮ PLAY/READYキー【CD】【iPod】
停止中または一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと一時停止状態になります。

第3章　準備

接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。電源は、最後に接続してください。

オーディオおよびビデオ機器との接続



アナログオーディオ機器との接続

本機のアナログ出力端子をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのアナログ入力端子に接続します。

メモ

- 本機には、ケーブルが付属されていません。
- ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因となります。

デジタルオーディオ機器との接続

本機のデジタル出力端子（COAXIALまたはOPTICAL）をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのデジタル入力端子に接続します。

メモ

iPodの再生音声信号と**AUX IN**端子の入力信号は、アナログ出力のみとなっております。デジタル出力はされません。

注意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1kHzとなります。
- オーディオCD、MP3、WAVファイル再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

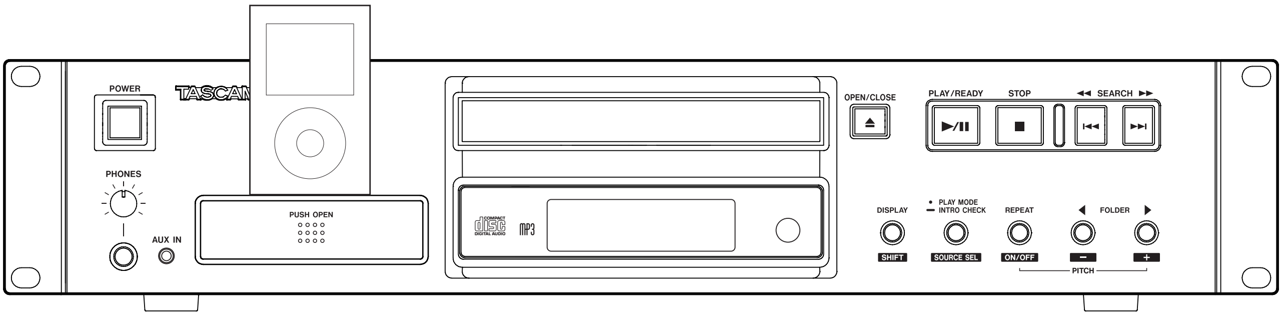
ビデオ機器との接続

本機の**VIDEO OUTPUT**端子または**S-VIDEO OUTPUT**端子を、テレビモニターなどのビデオ機器のビデオ入力端子に接続します。

接続した機器に応じて、テレビ信号設定（NTSCまたはPAL）およびテレビ画面設定（もしくはワイドスクリーン設定）を変更してください。

iPodの接続

フロントパネルのiPodドックにiPodを装着し、本機よりiPodの音声および映像の出力、およびコントロールを行うことができます。また、iPodを充電することも可能です。



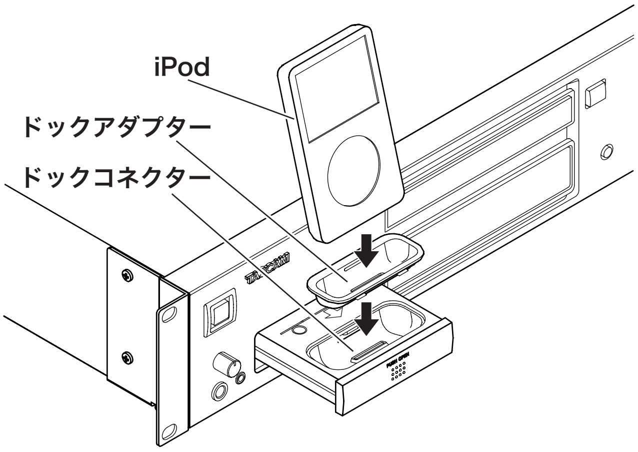
必ずお手持ちのiPodに適合するドックアダプターをコネクター部に取り付けてください。ドックアダプターは、同梱しておりません。iPodに付属または市販のApple Inc. 製のApple iPod Universal Dockアダプターをご使用ください。

注意

- 本機のiPodドックに iPodを設置した場合は、iPod本体が本機の高さを超えます。本機の上側に設置された機器との干渉を避けるため、本機の上は2U以上（10cm以上）のスペースを開けてください。
- 本機は、第4世代以降のドックコネクターを装備したiPodに対応しています。
- iPod shuffleは、ドックコネクターを備えていないため、ドックに装着できません。AUX IN端子を用いて接続してください（→ 17ページ「外部オーディオプレイヤーの接続」）。
- iPodを装着する場合は、必ずケースを外してください。ケースを付けたままですと、接続が不完全になり、正常に操作や再生ができない場合があります。
- お使いになるiPodに適合するドックアダプターを使用してください。不適合なドックアダプターを使用すると、双方のコネクターを破損することがあります。

メモ

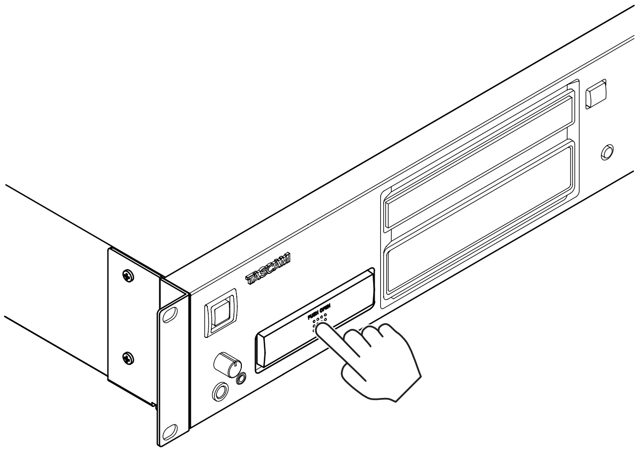
本機のiPodドックにiPodをセットすると、本機の電源がオンの間は常に充電します。iPodの充電が完了すると充電を停止します。電源がオフのときは充電されません。
充電中は、iPodの画面に充電表示が表示されます。詳しくは、お使いのiPodの取扱説明書をご覧ください。

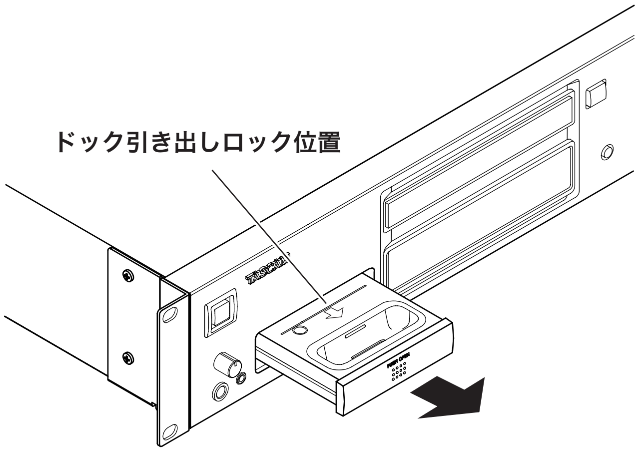


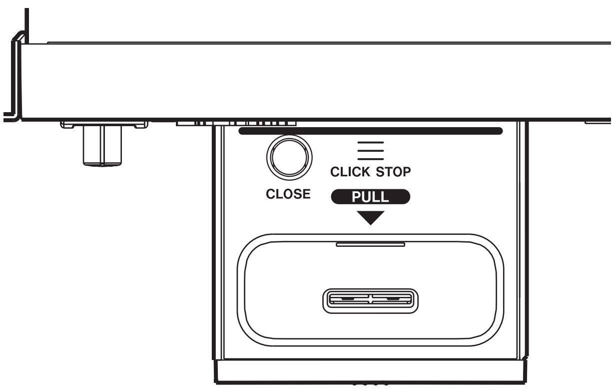
[iPodドック用アダプター構成図]

iPodドックの引き出しかた

iPodドック中央のPUSH OPEN部を押し、ロックを解除してからiPodドックを引き出します。
iPodドックは、ロックするまで引き出してから使用してください。





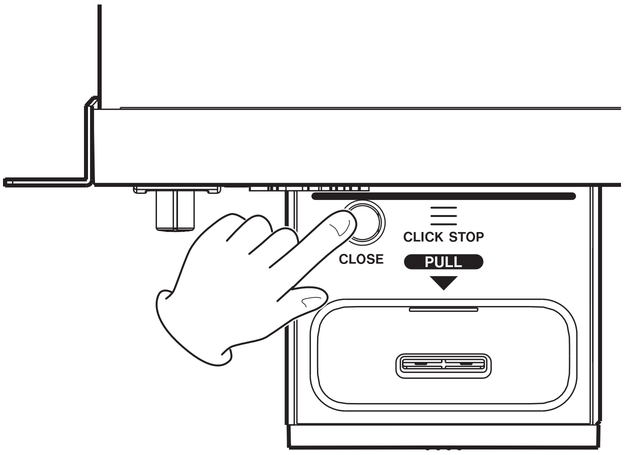


注意

- iPodドックを引き出した状態で、iPodドックに上下左右の方向から圧力を加えないでください。
- iPodドックを引き出した状態で、iPodドックの上にiPod以外の物を乗せないでください。

iPodドックの収納のしかた

iPodを取り外し、iPodドック上面にあるCLOSEボタンを押しながら、パネル面のPUSH OPEN部を押してください。

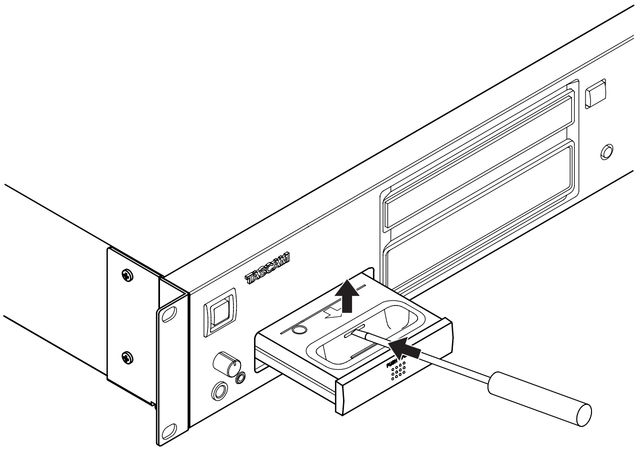


注意

iPodドックを収納するときは、必ずiPodドック上面にあるCLOSEボタンを押し、ロックを解除してから、パネル面のPUSH OPEN部を押してください。

ドックアダプターの外しかた

下図のようにドックアダプターの穴にマイナスドライバーを差し込み、ドックアダプターを外します。

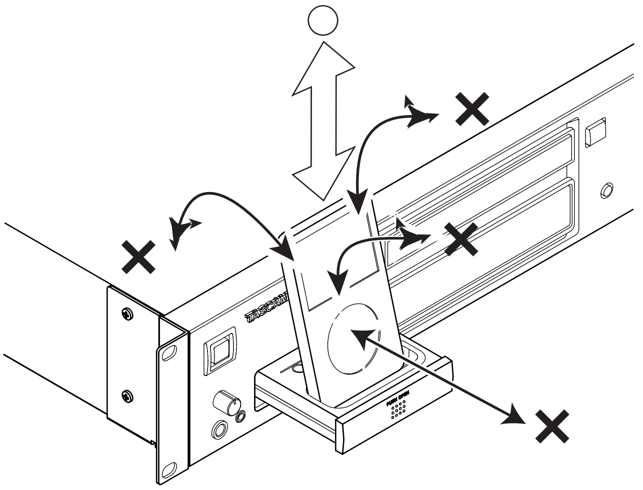


注意

- ドックアダプターを外すときは、iPodドックを手で押さえながら外してください。
- iPodドックを引き出した状態で、iPodドックに上下左右の方向から圧力を加えないでください。

iPodを取り外すには

- iPodを抜き差しするときは、出力ソース音をiPod以外（CDもしくはAUX IN）に変更するか、本機の電源をオフにしてから行ってください。
- iPodを抜き差しするときは、ドックコネクターに負担がかからないように、ドックコネクターの傾きにあわせて、ていねいに行ってください。詳しくは、下図を参照してください。



[iPod抜き差し方向図]

外部オーディオプレイヤーの接続

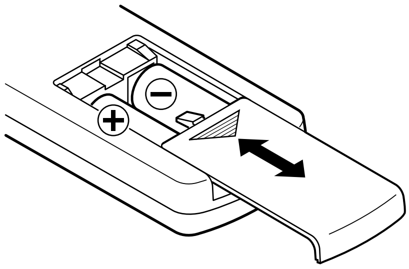
ドックコネクターを搭載していないiPodや、iPod以外のオーディオプレイヤーのアナログ出力を本機のフロントパネルのAUX IN端子に接続することによって、本機の出力端子よりオーディオプレイヤーの出力することができます。なお、AUX IN端子は入力レベル調節がありません。外部機器側で出力レベルを調節してください。

注 意

- 外部機器をAUX IN端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- AUX IN端子への抜き差しをする際は、出力ソース音をAUXI N以外（CDもしくはiPod）に変更するか、本機の電源をオフにしてから行ってください。

リモコンを準備する

乾電池の入れ方



1. 裏側のふたを開けます。

2. ⊕、⊖ の向きに注意して、単3形乾電池を2本挿入します。

3. ふたを閉めます。

乾電池の交換時期

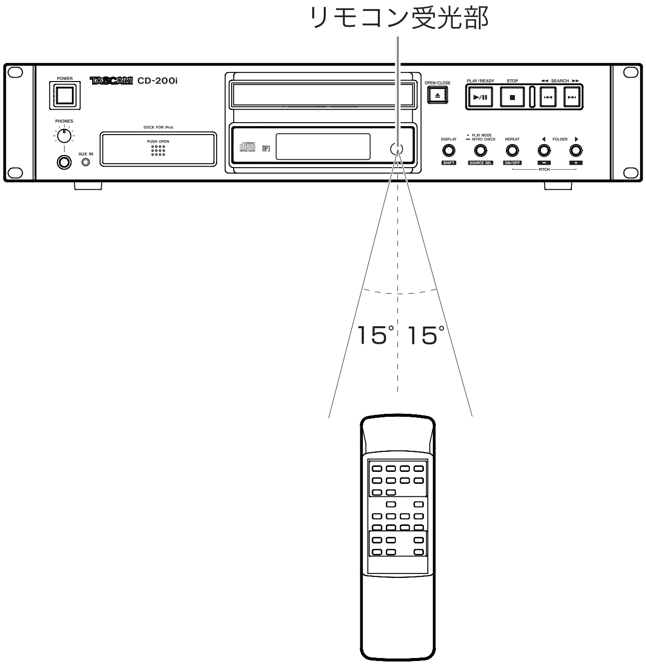
操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本同時に新しい乾電池に交換してください。

乾電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。乾電池の注意表示、および本書4ページをよくお読みください。

リモコン使用上の注意

- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンは、以下の範囲内でご使用ください。



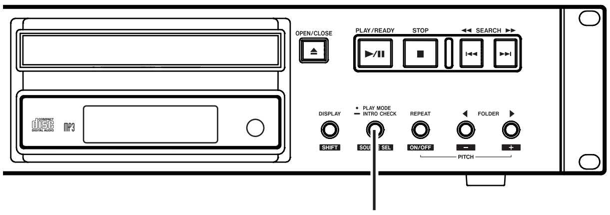
動作距離

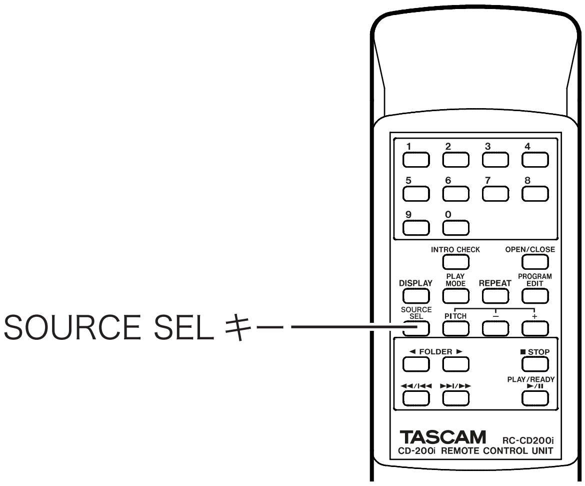
正面：7メートル以内

左右15度以内：7メートル以内

出力ソース音を切り換える

本機の出力音声信号は、CDの再生音、iPodドックに装着されたiPodの再生音、AUX IN端子からの入力音の中から選択ができます。本体のDISPLAY [SHIFT] キーを押しながらPLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キーを押す、またはリモコンのSOURCE SELキーを押します。





この操作で本機器からの出力ソース音を以下の順で切り換えます。

→ CD → iPod → AUX IN

[出力ソース・切り換え順]

[出力ソース・iPod選択時のディスプレー表示]

[出力ソース・AUX IN選択時のディスプレー表示]

注意

- iPod、AUX IN端子については、機器が接続されていない場合は選択できません。
- 出力ソース音をCDからiPodに切り換えたとき、CDが再生中または再生待機中であれば、CDを停止します。また、出力ソース音をiPodからAUX IN端子に切り換えたとき、iPodが再生中であれば、iPodを一時停止します。

メモ

出力ソース音を切り換えても、CDの再生モード設定、カレントフォルダ、プログラム内容は消去されません。

第4章　CDの再生

再生可能なディスク

本機は、以下のファイル/ディスクを再生することができます。

● CD-DA（オーディオCD）形式のディスク

市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスクを再生できます。
本書ではこれらのディスクを「オーディオCD」と呼びます。

注 意

本機は、ファイナライズされていないCD-Rディスクは読めません。

● CD-ROM（データCD）形式のディスク

記録方式がISO9660 Level1 およびLevel2, Jolietで、MP3ファイルやWAVファイルを収録したディスクを再生できます。
本書では、これらのディスクを「データCD」と呼びます。

メ モ

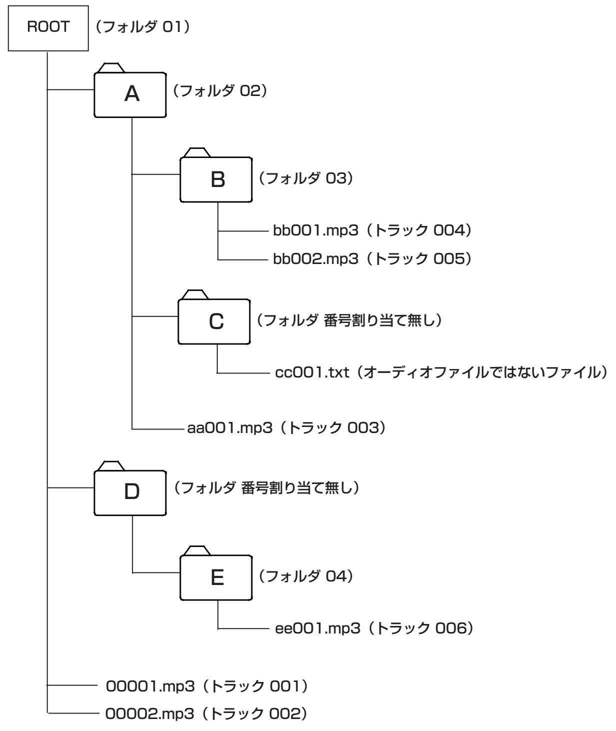
再生可能なMP3ファイルは、サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz、ビットレート32kbps〜320kbpsまたはVBR（可変ビットレート）のファイルです。
再生可能なWAVファイルは、サンプリング周波数8kHz〜48kHz、8bit/16bit のファイルです。

注 意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1KHzとなります。ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- 本機のディスプレーには、半角のアルファベットと数字（1バイト文字）しか表示できません。ファイル名に日本語や中国語などの全角文字（2バイト文字）が使われている場合は、再生が可能ですが、ディスプレーに正しく表示できません。
- MP3ファイルの認識は、ファイル拡張子「.mp3」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」がついていても、MP3データ形式でないファイルは再生できません。
- WAVファイルの認識は、ファイル拡張子「.wav」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.wav」を付けてください。拡張子「.wav」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.wav」がついていても、WAVデータ形式でないファイルは再生できません。
- 1000以上のファイルまたは513以上のフォルダが記録されたディスクは、正常に再生できないことがあります。
- ディスクの状態によっては、本機で再生できなかったり、音が途切れることがあります。

データCDのフォルダとトラックについて

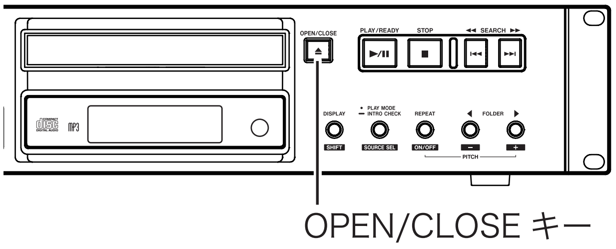
本機は、データCD上の各オーディオファイル（WAVまたはMP3）を「トラック」として扱います。データCDの中には、通常のパソコンのファイルの扱いと同じように、ファイルをフォルダに収納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダをまとめて1 つのフォルダに収めるといった、複数階層構造のものもあります。
本機では、各フォルダにフォルダ番号を付けて管理します。フォルダ番号は、階層の浅いフォルダから階層の深いフォルダ（サブフォルダ）に向かってゆく方向で割り当てられます。データCDのルートにオーディオファイルがある場合は、ルートも1つのフォルダとして扱います。
また、各オーディオファイルには、トラック番号を付けて管理します。トラック番号は、フォルダ番号の若いフォルダ内のファイルから順に割り当てられます。
データCDを通常再生すると、オーディオCDと同じように、トラック番号順に再生されます。
すぐ下の階層にオーディオファイルが収納されていないフォルダには、フォルダ番号が割り当てられません。たとえば下図のような構成のディスクの場合は、フォルダCとフォルダDには番号が割り当てられません。

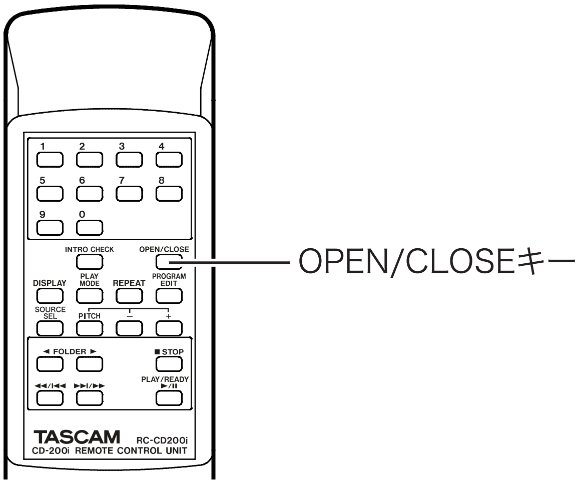


〈データCDの構成例〉

CDをセットする

CDをセットするには、本体またはリモコンの**OPEN/CLOSE**キーを押してディスクトレーを開き、ラベル面を上にしてディスクをのせます。
再度**OPEN/CLOSE**キーを押して、ディスクトレーを閉じます。
ディスクをセットすると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダの総トラック数を、ディスプレーに表示します。





メモ

上記で**OPEN/CLOSE**キーを押して、ディスクトレーを閉じる代わりに**PLAY/READY**キーを押すと、ディスクトレーを閉じて再生が始まります。

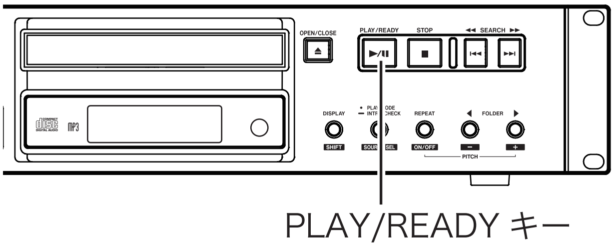
注意

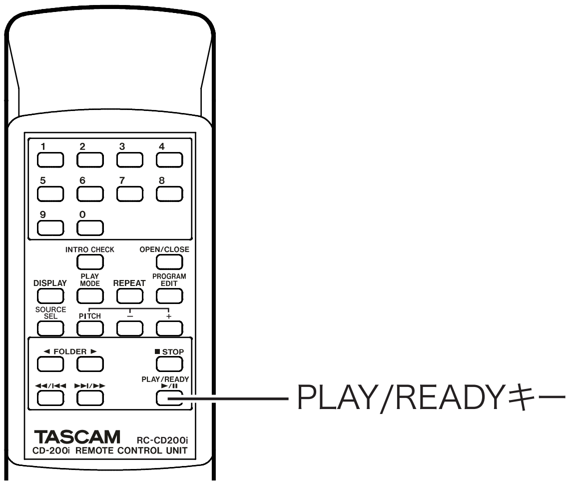
本機を使用中にディスクトレーを開くと、以下の設定が消去されます。

- プログラム
- カレントフォルダ（データCDの場合）

再生する

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、CD（オーディオCDまたはデータCD）がセットされていることを前提にしています。
CDの再生を始めるには、本体またはリモコンの**PLAY/READY**キーを押します。





- **再生を停止するには：**

  本体またはリモコンの**STOP**キーを押します。

- **再生を一時停止するには：**

  本体またはリモコンの**PLAY/READY**キーを押します。

なお、この取扱説明書では、特に断らないかぎり、再生モードが連続再生モードに設定されているものとして説明しています。（ → 23ページ「再生モード」）

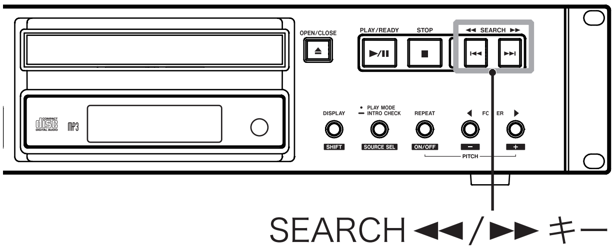
トラックを選ぶ

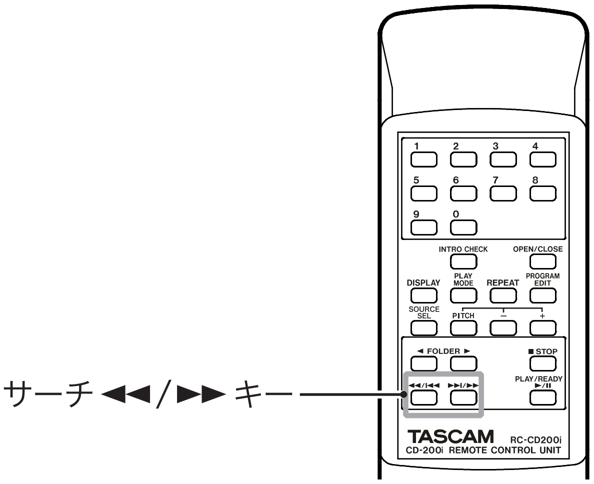
トラックを選ぶ方法には、前後のトラックに移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

本体のSEARCH ◀◀/▶▶（I◀◀/▶▶I）キーまたはリモコンのサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを押します。

トラックを選択した後、本体またはリモコンのPLAY/READYキーを押すと、トラックの再生が始まります。



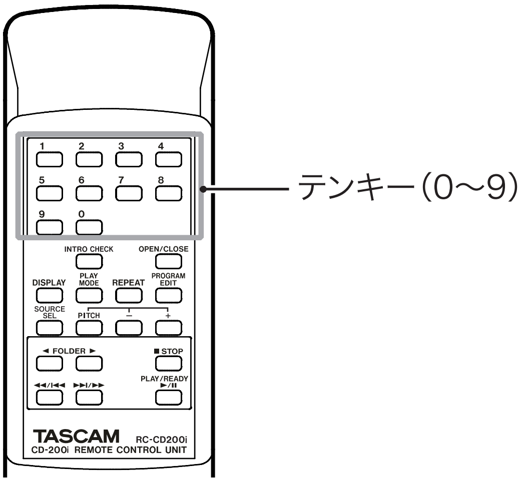


トラック番号を指定する

リモコンのテンキー（0～9）を使用して、再生するトラック番号を直接指定することができます。

トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3 桁です。

1. リモコンのテンキー（0～9）を使って、トラック番号を入力します。トラック番号は、高い桁の数字から順に入力します。



- **トラック1を指定する場合:**
  1キーを1回押す。
- **トラック12を指定する場合:**
  1キー→ 2キーの順に押す。

2. 本体またはリモコンのPLAY/READYキーを押します。
   選択したトラックの再生が始まります。
   本体またはリモコンのSTOPキーを押すと、トラック番号入力表示が消えて、元の表示に戻ります。

メモ

プログラム、シャッフルモード時は、テンキーを使ったトラック指定ができません。

早送り/早戻しサーチ

音声を聞きながらトラック内を早送り/早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. 本体のSEARCH ◀◀/▶▶（I◀◀/▶▶I）キーまたはリモコンのサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを押し続けます。早送り/早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているキーを離します。サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

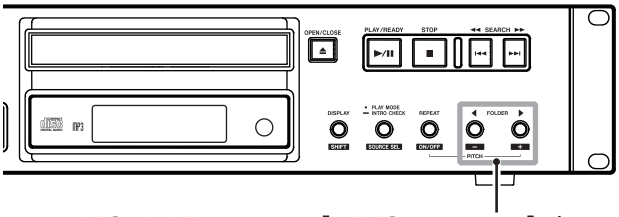
メモ

MP3やWAVファイルでも早送り/早戻しサーチは可能です。

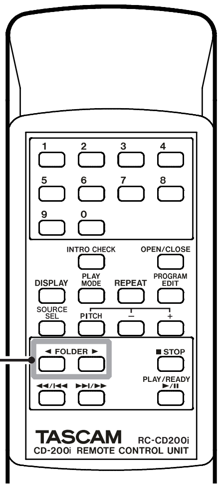
フォルダ再生（データCDのみ）

データCDの場合は、指定したフォルダ（＝カレントフォルダ）を再生範囲にすることができます。以下に説明する方法で再生するフォルダを指定することができます。ただし、“ALL”を指定することにより、ディスク全体を再生範囲にすることができます。

フォルダを選ぶ



FOLDER◀ /▶ [PITCH ー /+] キー



FOLDER◀/▶キー

データCDの場合は、本体の**FOLDER ◀/▶［PITCH ー /+］**キーまたはリモコンの**FOLDER ◀/▶** キーを押すことによって、前後のフォルダにスキップすることができます。それぞれ、手前または次のフォルダの先頭トラックの冒頭にスキップします。なお、キーを押したままにすると、次々とフォルダをスキップします。

メモ

- フォルダのスキップに従ってカレントフォルダが切り換わります。
- フォルダ再生中に全曲リピートを行うと、カレントフォルダ内の曲をリピート再生します。
- フォルダ再生中にシャッフル再生を行うと、カレントフォルダ内の曲をランダムに再生します。
- フォルダ再生モードでプログラムを組んだ場合は、カレントフォルダの曲だけがプログラムの対象となります。

再生モード

本機は、以下の3種類の方法（再生モード）で、トラックを再生することができます。

連続再生（初期設定）

ディスク上のトラックを番号順に再生します。

メモ

データCDでフォルダ再生モード時は、再生中のフォルダ内のトラックを番号順に再生します。

シャッフル再生

ディスク上のトラックを、トラック番号に関係なくランダムに再生します。全トラックの再生を終えると停止します。

メモ

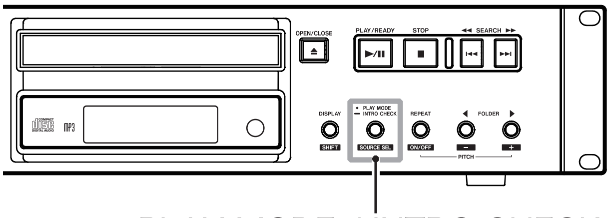
データCDでフォルダ再生モード時は、カレントフォルダ内のトラックをランダムに再生します。（ → 23ページ「フォルダ再生（データCDのみ）」）

プログラム再生

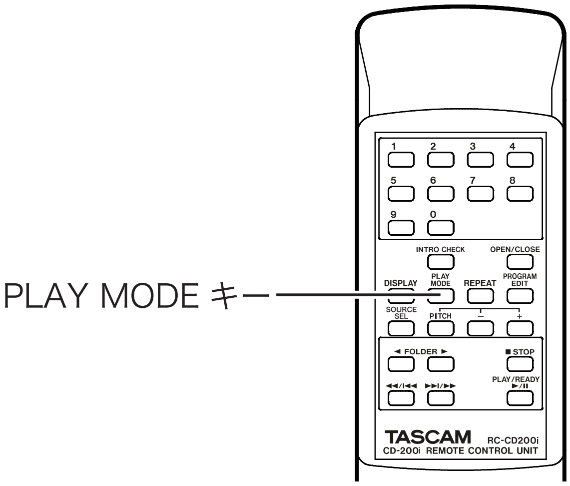
プログラムした順序でトラックを再生します。詳しくは、「プログラム再生」（24ページ）をご覧ください。

再生モードを選択する

本体の**PLAY MODE / INTRO CHECK［SOURCE SEL］**キーまたはリモコンの**PLAY MODE**キーを押すたびに、再生モードが切り換わります。ただし、再生中に押すと、連続再生とシャッフル再生の間で切り換わります。プログラム再生を選択するには、停止中またはCDがセットされていないときに本体の**PLAY MODE / INTRO CHECK［SOURCE SEL］**キーまたはリモコンの**PLAY MODE**キーを押してください。
ディスプレーに、現在選ばれているモードが次のように点灯します。



PLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キー



ディスプレー	再生モード
無点灯	連続再生
SHUFFLE	シャッフル再生
MEMORY	プログラム再生

選択した再生モードは、電源を切っても保持されます。

メモ

本体のPLAY MODE / INTRO CHECK ［SOURCE SEL］ キーまたはリモコンのPLAY MODEキーを押した直後、ディスプレーのメイン表示部にも選択したモードが次のように表示されます。

連続再生モード選択時：CONTINUE

シャッフル再生モード選択時：SHUFFLE

プログラム再生モード選択時：PROGRAM

プログラム再生

プログラム再生を行うには、再生モードをプログラム再生モードにしてからプログラムを設定するか、あるいはあらかじめプログラムを設定してからプログラム再生モードにします。（ → 23ページ「再生モードを選択する」）

プログラム再生モード中、本体またはリモコンのPLAY/READYキーを押すと、設定しているプログラムの1曲目（プログラムステップ“01”）から順に再生を行います。本体のSEARCH ◀◀/▶▶（I◀◀/▶▶I）キーまたはリモコンのサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを押すと、手前/次のプログラムステップにスキップします。

プログラム再生モードでは、停止中にプログラム数と総プログラム時間が表示されます（データCDの場合は、総プログラム時間は表示されません）。

メモ

- プログラム再生を選択するには、停止中またはCDがセットされていないときに本体のPLAY MODE / INTRO CHECK ［SOURCE SEL］ キーまたはリモコンのPLAY MODEキーを押してください。
- フォルダ再生モードでは、カレントフォルダの曲がプログラム対象となります。

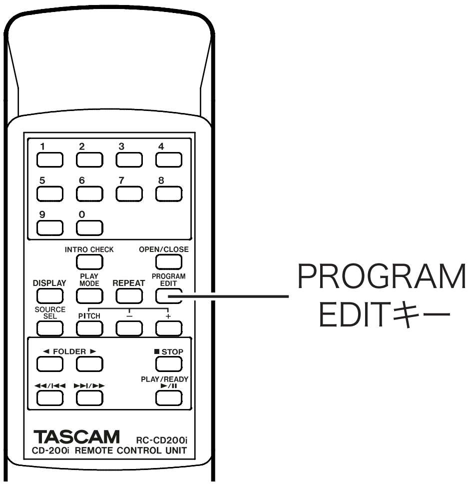
プログラムを設定する

プログラムが設定されていない場合は、以下の手順でリモコンを使ってプログラムを設定することができます。

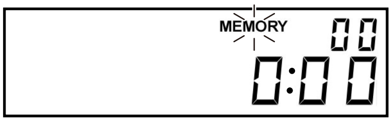
メモ

- 本体からのプログラムの設定はできません。
- 現在の再生モードにかかわらず、いつでもプログラムを設定することができます。
- ディスクトレーを開くとプログラムが消去されます。

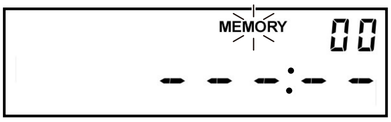
1. 停止中にPROGRAM EDITキーを押します。



プログラム設定モードになり、プログラムが未設定の場合は、プログラムステップ“01”にトラックを登録できる状態になります（“MEMORY”点滅）。



［ オーディオCDの場合のディスプレー表示 ］

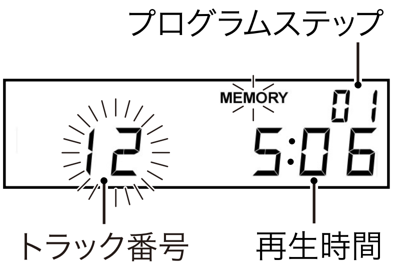


［ データCDの場合のディスプレー表示 ］

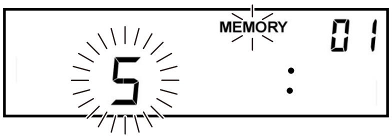
メモ

プログラムがすでに設定されている場合は、プログラムステップ“01”に登録されているトラック番号と再生時間が表示されます。

2. テンキーまたはサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを使って、プログラムステップ“01”に登録するトラックを選びます（“MEMORY”とトラック番号が点滅）。
テンキーを使った場合は、左の桁から順に入力されます。



[オーディオCDの場合のディスプレー表示]

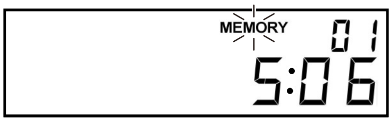


[データCDの場合のディスプレー表示]

メモ

- データCDの場合は、テンキーまたはサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを押してから1秒以上経過すると、ディスプレーがファイル名表示に切り換わりますが、プログラムの設定は可能です。
- トラックを選択した状態でSTOPキーを押すと、トラック選択がキャンセルされ、再びトラックを選択できる状態に戻ります。

3. PROGRAM EDITキーを押します。
選んだトラックがプログラムステップ“01”に登録され、次のプログラムステップを登録できる状態になります。



4. 上記手順2.と3.を繰り返して、希望のトラックを順次、登録していきます。
5. プログラム設定を終えたら、次のプログラムステップにトラックを登録できる状態のときに再度PROGRAM EDITキーを押します。
プログラム設定モードを終了します。

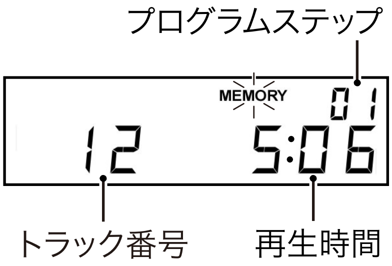
メモ

- 同じトラックを繰り返し登録することも可能です。
- 次のプログラムステップにトラックを登録できる状態のときにSTOPキーを押すと、プログラムがすべて消去されます。
- 100曲以上を登録しようとすると、エラーメッセージ“PGM FULL”が表示されます。登録できるのは99曲までです。

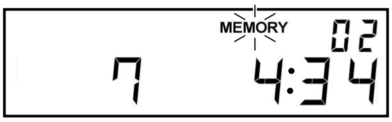
プログラムを確認する

プログラムの内容を確認することができます。

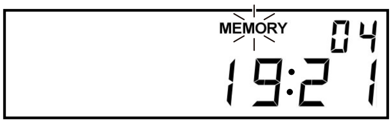
1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITキーを押して、本機をプログラム設定モードにします。
ディスプレーにプログラムステップ“01”に登録されているトラック番号と再生時間が表示され（ただしデータCDの場合は再生時間が表示されません）、“MEMORY”が点滅します。



2. PROGRAM EDITキーを押すたびに、次のプログラムステップの登録トラック情報が表示されます。



3. 最後のプログラムステップを表示中にPROGRAM EDITキーを押すと、トラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、“MEMORY”が点滅している状態）になります。



4. 再度PROGRAM EDITキーを押すと、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを差し替える

すでに登録されているトラックを差し替えることができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITキーを押して、本機をプログラム設定モードにします。
2. 上記「プログラムを確認する」に従い、PROGRAM EDITキーを押して、トラックを差し替えたいプログラムステップを表示します。
3. テンキーまたはスキップ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを使って希望のトラックを選択し、PROGRAM EDITキーを押します。
差し換えが完了し、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態になります。
4. 再度PROGRAM EDITキーを押して、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを追加する

設定されているプログラムの最後に、トラックを追加することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITキーを押して、本機をプログラム設定モードにします。

2. PROGRAM EDITキーを押していって、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、“MEMORY”が点滅している状態）にします。

3. テンキーまたはスキップ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを使って追加するトラックを選択し、PROGRAM EDITキーを押します。

4. この状態で、手順3.と同じ操作を行うと、さらにトラックを追加することができます。あるいはPROGRAM EDITキーを押すと、プログラム設定モードを終了します。

注 意

- プログラムの最後にトラックを追加したり、プログラムトラックを差し替えることはできますが、プログラムの途中にトラックを挿入することはできません。
- プログラムの途中にトラックを挿入したい場合は、プログラムトラックの差し替えと追加を使って、プログラムの内容を修正してください。

プログラムを消去する

設定されているプログラム全体を消去することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITキーを押して、本機をプログラム設定モードにします。

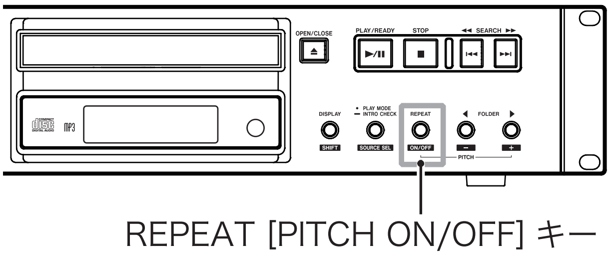
2. PROGRAM EDITキーを押していって、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、“MEMORY”が点滅している状態）にします。

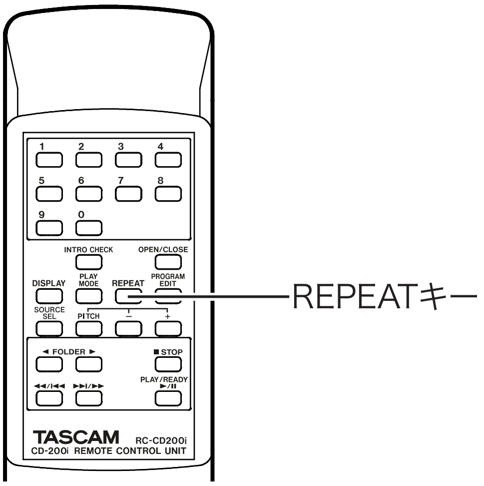
3. STOPキーを押します。
ディスプレーに“-CLEAR-”を表示してプログラムが消去された後、プログラム未登録時のプログラム設定モードになります。

上記の他に、ディスクトレーを開いた場合もプログラムが消去されます。

リピート再生

選択トラックあるいは全トラックを、繰り返し再生することができます。
本体のREPEAT [PITCH ON/OFF] キーまたはリモコンのREPEATキーを押して、リピートモードを以下の中から選択することができます。





シングルリピート（ディスプレーに“REPEAT”が点灯）：

選択したトラックが繰り返し再生されます。

オールリピート（ディスプレーに“ALL”と“REPEAT”が点灯）；

全トラック*を繰り返し再生します。

＊ データCDのフォルダ再生時は、フォルダ内の全トラック。プログラム再生時は、プログラム内の全トラック。

オフ（無点灯）：

リピート再生しません。

リピート再生をオフにするには；

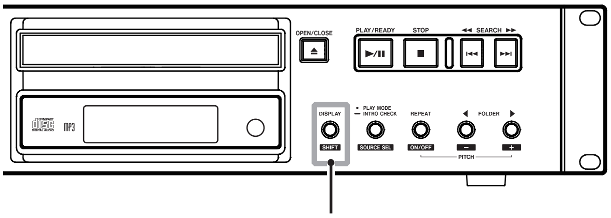
ディスプレーの“ALL”と“REPEAT”が消灯するまで、本体またはリモコンのREPEATキーを押します。

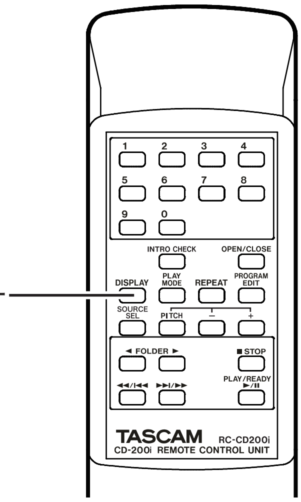
メ モ

- 再生中にリピート再生をオンにした場合は、そのまま再生を続け、最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。停止中にオンにした場合は、PLAY/READYキーを押すとリピート再生が始まります。
- リピート機能のオン/オフ設定は、電源を切っても保持されます。

時間や文字情報の表示

ディスプレーに表示される時間表示や文字情報の内容を選択することができます。
本体のDISPLAY［SHIFT］キーまたはリモコンのDISPLAYキーを押すと、ディスプレーのメイン表示部に現在表示されている情報（再生時間や文字情報）の種類が2秒間表示されます。その間に再び本体のDISPLAY［SHIFT］キーまたはリモコンのDISPLAYキーを押すと、表示情報の種類が切り換わります。
なお、セットしているディスクの種類や状態、および本機の動作状態によって、切り換わる表示情報の種類が異なります。





CDテキストを含むオーディオCD

停止中は、「総時間 → アルバムタイトル → アルバムアーティスト → 」の順に切り換わります。
再生中/一時停止中は、「トラック経過時間 → トラック残時間 → 総残時間 → トラックタイトル → トラックアーティスト → 」と切り換わります。

CDテキストを含まないオーディオCD

停止中は、総再生時間を表示します。
再生中/一時停止中は、「トラック経過時間 → トラック残時間 → 総残時間 → 」の間を切り換わります。

データCD

停止中は、「総トラック数 → アルバムタイトル（カレントフォルダ）」の間を切り換わります。
再生中/一時停止中は、「トラック経過時間 → タイトル → アーティスト → ファイル → 」の間を切り換わります。

メモ

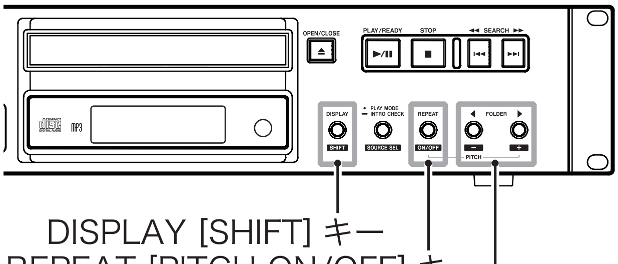
- 本体のDISPLAY［SHIFT］キーまたはリモコンのDISPLAYキーを押してから2秒間、ディスプレーのメイン表示部に、現在選択中の表示情報の種類が以下のように表示されます。

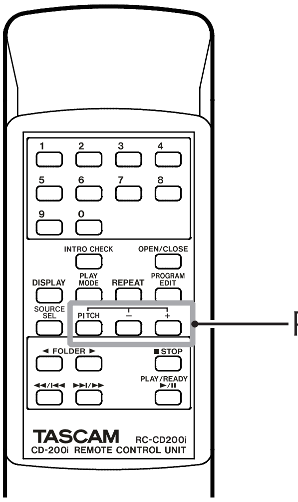
  トラック経過時間：“ELAPSED”
  トラック残時間：“REMAIN”
  総残時間：“T REMAIN”
  アルバム/トラックタイトル：“TITLE”
  アルバム/トラックアーティスト：“ARTIST”
  ファイルネーム：“FILENAME”

- ディスプレーに表示される文字情報は、データCDの場合はID3タグ情報、オーディオCDの場合はCDテキスト情報です。これらの情報がディスクやファイルに記録されていない場合や情報に表示できない文字が含まれている場合は、“NO TITLE”（タイトル情報のとき）か“NO NAME”（アーティスト情報のとき）と表示します。
- オーディオCDでのプログラム再生モード中は、プログラム全体の経過時間や残時間を表示します。
- 表示内容の設定は、電源を切っても保持されます。

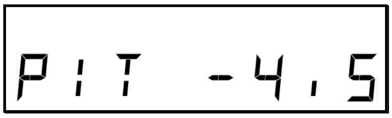
ピッチコントロール

CDのピッチ（音の高さと再生の速さ）を変えて再生することができます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。





1. 本体のDISPLAY [SHIFT]キーを押しながら、REPEAT [PITCH ON/OFF] キーを押すか、リモコンのPITCHキーを押して、ピッチコントロール再生をオンにします。このとき、現在のピッチコントロール値を表示します。



2. 本体のDISPLAY［SHIFT]キーを押しながら、本体のFOLDER ◀/▶ [PITCH ー/+] キーを使うか、リモコンのPITCH ー/+キーを使ってピッチを設定します。

   ー 14% ～+14%（0.5%単位）の範囲で設定することができます。

● **ピッチコントロール再生をオフにするには；**

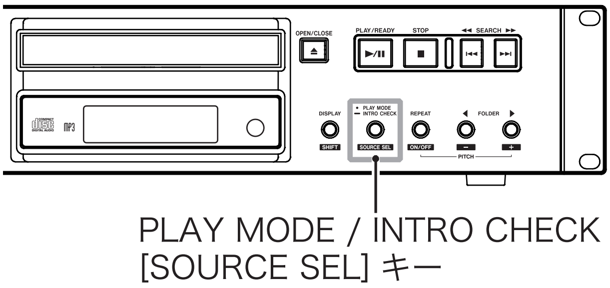
本体のDISPLAY [SHIFT] キーを押しながら、REPEAT [PITCH ON/OFF] キーを押すか、リモコンのPITCHキーを押します。

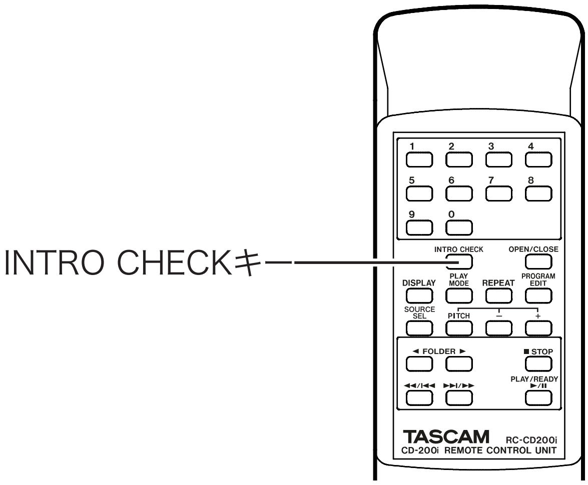
注 意

- 再生中にピッチコントロール再生のオン/オフを切り換えると、再生音が一瞬途切れることがあります。
- データCD（MP3、WAV）をピッチコントロール再生すると、再生音が途切れる場合があります。
- ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- ピッチコントロール機能は、iPodには使用できません。

イントロチェック

再生中あるいは停止中に本体のPLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キーを長く押す、またはリモコンのINTRO CHECKキー押すと、“INTRO” が点灯して収録されている個々の曲の冒頭の部分（10秒間）だけを次々と再生します。イントロチェック中にもう1度本体のPLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キーを長く押すまたはリモコンのINTRO CHECKキー押すと、“INTRO” が消灯して通常の再生モードに戻ります。





● イントロチェック中に本体のSEARCH ◀◀/▶▶（I◀◀/▶▶I）キーまたはリモコンのサーチ（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）キーを短く押すと、前後の曲へスキップします。

● イントロチェックを停止するには、STOPキーを押します。

● データCDでもイントロチェックは可能です。

● プログラムモードやフォルダ再生モードでもイントロチェックは可能です。

注 意

イントロチェック機能は、iPodには使用できません。

フロントパネルのiPodドックにiPodを装着することにより、本機より、iPodの音声/映像出力、およびコントロールを行うことができます。また、本機の電源が入っていれば、iPodを充電することもできます。

iPod用ドックについて

「iPodの接続」（15ページ）の説明にしたがって、iPodを取り付けてください。必ずお手持ちのiPodに適合するドックアダプターをコネクター部に取り付けてください。ドックアダプターは、同梱しておりません。iPodに付属または市販のApple Inc. 製のApple iPod Universal Dockアダプターをご使用ください。

- iPodの取り付け取り外しには、コネクターを破損しないよう、または突然大きな音が出ることの無いよう、「iPodの接続」（15ページ）を良くお読みになり、十分注意して行ってください。
- 本機の対応機種についての詳細は、弊社ウェブサイト（http://tascam.jp/）をご参照ください。

コントロール範囲

CD-200iのフロントパネルまたは付属のワイヤレスリモコン（RC-CD200i）から、iPodに対して以下のコントロールが可能です。

PLAY/READYキー（▶/❚❚）: 再生/一時停止

STOPキー（■）: 一時停止

SKIPキー（◀◀/I◀◀、▶▶I/▶▶）: 前へ/次へ、長押しで巻き戻し/早送り

FOLDERキー（◀/▶）: アルバムスキップ

REPEATキー：1曲リピート→全曲リピート→オフ→の切り換え

PLAY MODEキー：→ 連続 → 曲シャッフル → アルバムシャッフル → の切り換え

DISPLAYキー：iPod選択時は、ビデオ出力先をiPod本体にするか、VIDEO OUT端子にするかを切り換え

注 意

iPodのソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作ができない場合があります。

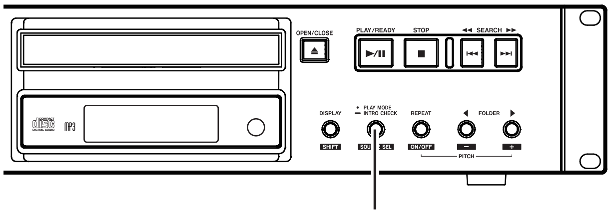
iPod側の設定

映像出力を行うには、iPod側で以下の設定が必要です。本機から設定の操作はできません。

- テレビ信号設定（NTSCまたはPAL）
- テレビ画面設定（もしくはワイドスクリーン設定）

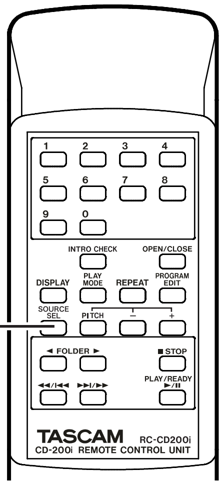
iPodの再生

1. 本体のDISPLAY [SHIFT] キーを押しながらPLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キーを押す、またはリモコンのSOURCE SELキーを押して、出力ソース音の設定をiPodにします。



PLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL] キー

SOURCE SEL キー



これで、CD-200i本体または付属のワイヤレスリモコン（RC-CD200i）で、iPodのコントロールおよび、本機からiPodの再生音声/再生映像出力が可能になります。

iPodのビデオ出力先の選択

iPod選択時は、本体またはリモコンのDISPLAYキーを使って、ビデオ出力先をiPod本体にするか、VIDEO OUT端子にするかを切り換えます。
ビデオ再生中に切り換えた場合は、一旦ビデオ再生を終了し、再度再生を行ったときに、ビデオ出力先が切り換わります。

[ビデオ出力先が iPodの時のディスプレー表示]

[ビデオ出力先が本機VIDEO OUT端子の時のディスプレー表示]

メ モ

本機のビデオ出力端子からは出力ソース音の選択に関係なく、常にiPodの再生映像出力信号を出力します。

第6章　メッセージ一覧

動作メッセージ

本機の動作に応じて、ディスプレーのメイン表示部に以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	メッセージ点灯/点滅	内容	対応方法
-CLEAR-	点灯	プログラムをすべて消去しました。	
CLOSE	点灯	ディスクトレーを閉じています。	
NO DISC	点灯	ディスクがありません/ディスクを検出できませんでした。	
NO FILES	点灯	ディスクに再生可能なファイルが1つもありません。	MP3, WAVファイルの記録されたディスクをセットしてください。
NO NAME	点灯	表示可能なアーティストデータ/ファイルデータがありません。	表示できる文字情報は7bit ASCII相当の文字のみです。
NO TITLE	点灯	表示可能なタイトルデータがありません。	表示できる文字情報は7bit ASCII相当の文字のみです。
OPEN	点灯	ディスクトレーが開いています。	
TOC READ	点灯	TOC情報を読み込んでいます。	
NO IPOD	点灯	iPodが装着されていません。	
-IPOD-	点灯	出力ソースとしてiPodが選択されています。	
-AUX-	点灯	出力ソースとしてAUX INが選択されています。	

警告メッセージ

操作を受け付けない場合は、以下のような警告メッセージを表示します。警告メッセージは、約2秒間表示された後、自動的に消えます。

メッセージ	メッセージ点灯/点滅	内容	対応方法
NO PGM	点灯	プログラムが設定されていません。	プログラムを設定してください。
PGM FULL	点灯	プログラムには100曲以上登録できません。	プログラムステップの追加登録をあきらめるか、またはプログラムを消去してから登録し直してください。

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが表示されたときは、対応方法を参考に原因を解消してください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センターにご相談ください。

メッセージ	メッセージ点灯/点滅	内容	対応方法
COMM ERR	点滅	CDドライブとの通信ができません。	ティアック修理センターにご相談ください。
COMM ERR	点灯	CDドライブとの通信でエラーが発生しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
DEC ERR	点灯	サポート外のファイルであるか、ファイルを再生できません。	ディスクを交換してください。
DISC ERR	点灯	TOCやファイルシステムが読み出せないか、フォーカス調整ができません。	ディスククリーニングするか、交換してください。
DRV ERR	点灯	CDドライブのハードウェアが故障しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
READ ERR	点灯	曲にアクセスできません。	ディスククリーニングするか、交換してください。

第7章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● **電源が入らない。**

↓

- 本機の電源プラグが適切な電源が来ているコンセントにしっかりと差し込まれていますか?

● **リモコンから操作できない。**

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか?

● **音が出ない。**

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。
- アンプの音量や設定を確認してください。

● **雑音がする。**

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていませんか?

● **CDを再生できない。**

↓

- MP3ファイルを収録したデータCDの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- ディスクに傷やよごれが付いていませんか?

● **データCDを全部再生できない。**

↓

- フォルダ再生モードになっていませんか?

● **iPodをiPodドックに差し込めない。**

↓

- 本機のiPodドックに正しいドックアダプターが取り付けられているか確認してください。
- 本機のiPodドックにごみやほこりが付着していないか確認してから、再度iPodを差し込んでください。

● **iPodの操作ができない。**

↓

- iPodが本機のドックコネクターに正しく接続されていますか?
- 本機の電源プラグがしっかりと差し込まれていますか?
- 本体の出力ソース音の設定が **"-IPOD-"** になっていますか?
- iPodのHOLDスイッチを解除してください。
- 一度iPodをIPodドックから抜き、しばらくしてからiPodを差し込んでください。
- iPodのソフトウェアをアップデートすることで問題が解決する場合がありますので、アップルのホームページにアクセスして、最新情報を確認してください。

● **iPodの音が出ない。映像が映らない。**

↓

- iPodは再生していますか?
- iPodが本機のドックコネクターに正しく接続されていますか?
- 本機の電源プラグが適切な電源が来ているコンセントにしっかりと差し込まれていますか?
- ビデオ/Sビデオケーブルが正しく接続されていますか?
- テレビの入力切り換えが本機を接続した映像入力端子になっていますか?
- iPodの映像出力先設定およびテレビ出力設定（NTSCまたはPAL）は合っていますか?

定格

● 再生可能ディスク

CD-DA（12cm/8cm）、CD-ROM（12cm/8cm）ISO9660 LEVEL 1/2/ROMEO/JOLIET format（CD-R/CD-RW DISC 対応）

● 再生可能フォーマット

オーディオCD（CD-DA）、MPEG Audio Layer III（MP3）、WAV

● MP3再生仕様

フォーマット：STEREO/JOINT STEREO/DUAL CHANNEL/MONO
サンプリング周波数：32kHz/44.1kHz/48kHz
ビットレート：32kbps〜320kbps、およびVBR

● WAV再生仕様

サンプリング周波数：8kHz/11.025kHz/12kHz/16kHz/22.05kHz/24kHz/32kHz/44.1kHz/48kHz
量子化ビット数：8bit/16bit

● オーディオCD再生仕様

サンプリング周波数：44.1kHz
量子化ビット数：16bit
チャンネル数：2チャンネル

入出力定格

● AUX IN [UNBALANCED] 端子

コネクター：ステレオミニジャック
基準入力レベル：－16dBV
最大入力レベル：0dBV
入力インピーダンス：22kΩ

● ANALOG OUTPUT [UNBALANCED] 端子

コネクター：RCAピンジャック
CD基準出力レベル：－10dBV
CD最大出力レベル：+6dBV
出力インピーダンス：200Ω

● PHONES端子

ヘッドホン出力
コネクター：ステレオ標準ホンジャック
定格出力：20mW+20mW以上
（CD MONITOR時、THD+N 0.1%以下、32Ω負荷）

● DIGITAL OUTPUTS [COAXIAL] 端子

コネクター：RCAピンジャック
対応信号フォーマット：IEC-60958-3民生用規格準拠（S/PDIF）
出力インピーダンス：75Ω

● DIGITAL OUTPUTS [OPTICAL] 端子

コネクター：オプティカル
対応信号フォーマット：IEC-60958-3民生用規格準拠（S/PDIF）

● VIDEO OUTPUT端子

コネクター：RCAピンジャック
対応信号フォーマット：コンポジット映像信号
出力インピーダンス：75Ω

● S-VIDEO OUTPUT端子

コネクター：4ピンミニDINコネクター
対応信号フォーマット：セパレート映像信号

オーディオ性能（CD再生時）

● **周波数特性：**20Hz〜20kHz ±1.0dB

● **S/N比：**90dB以上（20kHz LPF + A-weighted）

● **歪率（THD+N）：**0.01%以下（1kHz：20kHz LPF）

● **ダイナミックレンジ：**90dB以上（20kHz LPF + A-weighted）

● **チャンネルセパレーション：**90dB以上（1kHz：1kHz BPF）

バックアップメモリー

本機は電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。
【CD】は、出力ソースとしてCDを選択されているときバックアップします。

- 時間/タイトル表示設定【CD】
- 再生モード【CD】
- プログラム【CD（ディスク挿入時）】
- カレントフォルダ【CD（ディスク挿入時）】
- 出力ソース設定
- リピート設定【CD】
- ピッチコントロール オン/オフ【CD】
- ピッチコントロール値【CD】

一般

● **電源：**AC100 V, 50-60Hz

● **消費電力：**10W

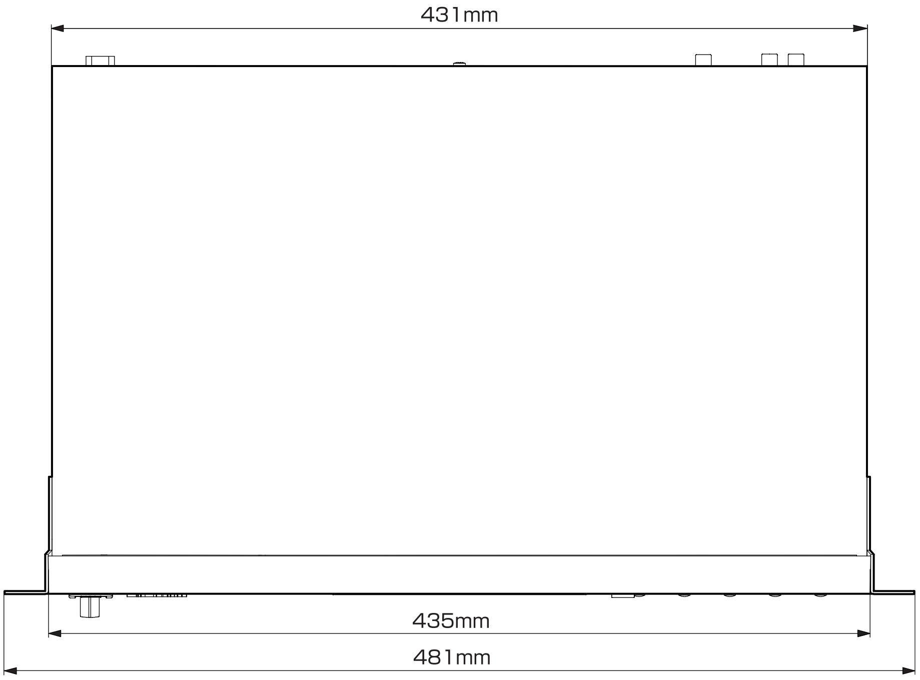
● **外形寸法：**481 x 94.5 x 298mm（幅 x 高さ x 奥行き）

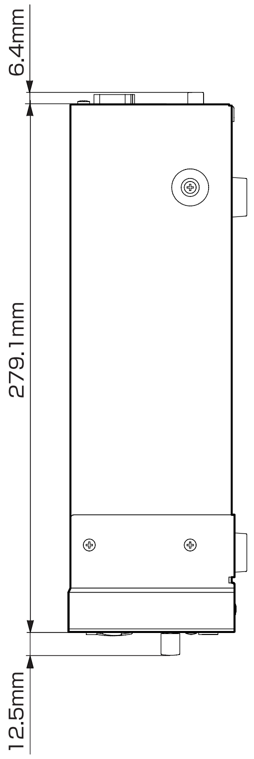
● **質量：**4.7kg

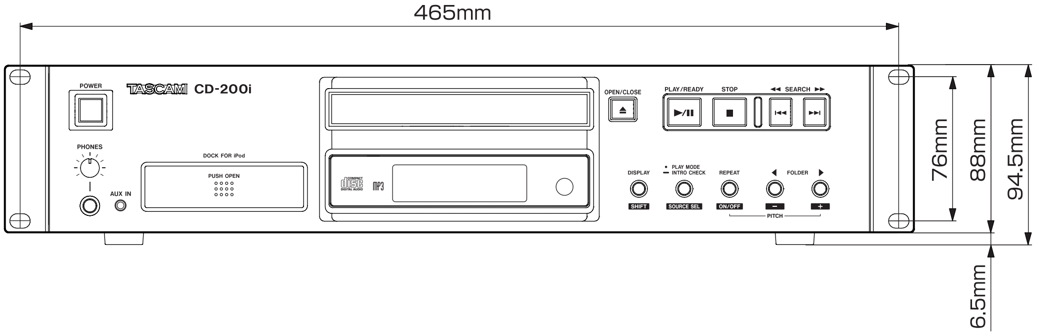
● **動作温度：**5〜35℃

● **設置時傾斜：**5度以内

寸法図







＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00〜12:00 ／ 13:00〜17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS･IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China